

◆布絵本を使ってみませんか

障害のある子どもたちに読書の楽しみを伝えるため、特別支援学校（学級）や障害児（者）福祉施設に、布絵本の団体貸出を行っています。

*個人の方への貸出は行っておりません。



◆図書館と県民のつどい埼玉 2017

日時：12/17（日）

会場：さいたま文学館（桶川市）

「学校図書館講座」「科学読み物講座」「読み聞かせ講座」等を開催します。

詳しくは、ウェブサイトまたはチラシをご覧ください。



◆「Shien」をもっと読んでみませんか

Shien は、バックナンバーを含めインターネットでも見られます。また、印刷もできます。

さらに、20号には1～20号の記事索引があります。



◆読み聞かせボランティア団体のための講師派遣

小中学校や幼稚園・地域で読み聞かせの活動をするボランティア団体を対象に、久喜図書館で養成した「おはなしボランティア指導者」を派遣します。

絵本の持ち方、本の選び方、覚え方、語り方など、初心者向けの内容です。



◆布絵本講座

当館で活動する布絵本製作ボランティアの技術向上と、新規ボランティア養成のための講座です。

日時：10/24（火）、10/31（火）

会場：県立久喜図書館



編集後記

児童サービスに携わって早半年。毎日が発見と勉強の連続です。

この情報誌が、子どもと本に携わる方々の、発見や勉強の手助けとなれますように。

（職員 K）

編集発行 埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のウェブサイト「子ども読書支援サービス」
<https://www.lib.pref.saitama.jp/> ※バックナンバーはこちら

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5
TEL 0480(21)2659 (代) 彩の国
FAX 0480(21)2791 埼玉県

子ども読書支援情報誌

携帯用 QR コード

しえん
Shien 第24号

子どもの読書に関わる方々の活動とネットワークを支援 (Shien) する。そんな大きな願いをもったやさやかな情報誌です。

平成29年9月15日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター



《目次》

- 巻頭言『科学の本っておもしろい!』・・・1
- インターネットからの情報収集担当から・・・1
- 連載：おはなし・読み聞かせ実践講座④・・・2
- 新聞・雑誌クリッピング担当から・・・2
- ブックリスト担当から・・・3
- 県立図書館からのお知らせ・・・4

科学の本っておもしろい!

『ひがんばんな』（甲斐信枝さく 福音館書店）は、秋、季節がめぐってくるたびに、家庭で、文庫で、学校で、図書館で、子どもたちに読んであげたい絵本です。燃えるような花の美しさ、そして耳に心地よいいくつもの愛称が、いかに昔から人びとに親しまれ、こまやかに観察してつけられた名前であるかが伝わってきます。読み聞かせをするときには、ヒガンバナの花の実物を用意して、見てもらい、読み終わったあとは、表皮を残して茎を右と左と互い違いに折って、輪にして、首飾りをつくる遊びなどを紹介しています。



図書館でも、科学あそびは年に数回、春休みや夏休みのイベントとして開くことが多く、その講師を外部から呼ぶことも多くなっているようです。しかし、子どもにとっては、日常生活の中で、身近に知っている人と、科学あそびを気軽に「あそび」として楽しむことに、大きな意味があるのではないかと思います。科学あそびは、その気になれば、何時でも、どこでも、誰でも、ちょっとした工夫や心がけでできます。日常のおはなし会の中でも、自然をテーマにする科学絵本を積極的に取り入れて、科学のおもしろさや楽しさを伝える努力をしてほしいです。



子ども時代に、自然と触れ合い、感動したり、おもしろがったり、不思議がったりする体験をうんとしてもらいたい。子どもの小さな発見と感動に、身近な大人も共感して、自然のすばらしさをたのしみたいですね。

市川美代子（科学読物研究会）

インターネットからの情報収集担当から

知っ得情報!

** おすすめウェブサイトの紹介 ** “ブックトーク”

今回は中学生に向けたブックトークの進め方について載っているサイトについて取り上げました。特に中学校の図書館司書の方の参考になる内容と思われます。

例報告-2012年8月-ブックトークをやってみよう! 和田幸子氏ブックトーク講演&交流会
学校図書館問題研究会千葉支部 <http://www.geocities.jp/chibagakuto/reikai20.html>

袖ヶ浦市立昭和中学校司書和田幸子氏のブックトークに関する講演の内容と、参加予定者が『戦争』というテーマでブックトーク事例を発表した内容が掲載されています。

おすすめの本

- 『キラキラ応援ブックトーク』（キラキラ読書クラブ著 岩崎書店 2009）
- 『ブックトークのきほん』（東京子ども図書館編 東京子ども図書館 2016）

坂本（子ども読書支援ボランティア）

読み聞かせなどのワンポイントアドバイスをリレーでお届けするコーナーです。

こどもに科学絵本を読んでみませんか？

科学絵本は、こどもが知りたい不思議がたくさん詰まった本です。物語になっているものもありますが、ほとんどは、物語絵本と違い、形容詞・修飾語が少なく、主語・述語で構成された簡潔な文章が特徴です。感傷的にならず、当たり前前の自然の摂理としてこどもに伝えましょう。そして、科学絵本は、こどもに読んだだけでは完結しないのも特徴です。タンポポの絵本を読んだら、本物のタンポポを見て触れて感じる。後で、実物を見て補完体験することで、こどもの血となり肉となるのです。「本見たから、実物はもう見たくない」では、失敗です。今は見られなくても、いつか「見たい」と思わせることが大事です。こどもは、物語絵本も科学絵本も区別しません。面白い本が好きなのです。食わず嫌いせず、ぜひ科学絵本も読んでみてください。



私がおはなし会でよく読む科学絵本		
バナナのはなし		福音館書店
ひがなばな		福音館書店
シロナガスクジラより 大きなものっているの？		評論社
うんちレストラン		ポプラ社
かぶとむしは どこ？		福音館書店
どんぐりむし		そうえん社
にゅうどうぐも		福音館書店
リボンのかたちの ふゆのせいざオリオン		福音館書店
くさる		福音館書店

＜科学絵本を選ぶポイント＞

- ① 遠目がきく絵・写真であること
拡大写真でも背景が映り込んでいると意外に遠目がききません。絵本の中には、コマ割りの写真や絵もあります。裏表紙も含めて、全て見えるか確認しておきましょう。
見え難い場合は、指を差し、短い補足をすれば使えるものもあります。どの部分で指を差し、どのような補足が分かりやすいかを仲間と事前確認しておきましょう。
- ② 読む対象のこどもにとって身近で興味をもって聞ける内容を
柿を食べたことのない子に、干し柿の絵本を読んでも伝わりません。
対象年齢や土地柄を考慮し、みんなが知っているものから始めましょう。
- ③ 季節が合っていること
季節は、ピッタリその季節に読むのがベストですが、1ヶ月前倒しても大丈夫です。
逆に、10日以上過ぎてしまうと、やや興ざめです。
- ④ 内容に現時点で間違いがないこと
本の通りにやってみようと実験する子もいます。現時点で間違いがない内容の絵本であることが大事です。同じ題名でも新版や改訂版が出ている場合は、新しい方を使いましょう。内容が一新されています。常に、新聞や知っている人に聞いて、新情報を取り入れる努力をしましょう。
- ⑤ プログラムは、【植物・動物・虫・気象・宇宙・その他（余裕があれば体・美術等）】を
年間で考えてバランスをとる
一つだけのジャンルに偏らず、バランスを考えましょう。悩んだ時は、“虫”を選びましょう。虫を“怖い”から“面白い”に変えるチャンスです。
- ⑥ 自分が面白いと思える絵本を読みましょう
読み手が嫌いな絵本を読んでも、その絵本の面白さはこどもに伝わりません。面白いと思った絵本を選んでください。嫌いな絵本は、他の人に任せましょう。



中村涼子（浦和子どもの本連絡会 科学読物研究会）

きいぬき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

今回は「命を守る大切さ」というテーマで、関連記事を御紹介します。自然災害や病気から自分の身を守る大切さを伝える絵本の取り組みを掲載した、読売新聞 2017年3月1日朝刊の記事を御紹介します。

◎こどもの防災教育に絵本 身の守り方や避難生活 対応力向上

こどもの防災教育に絵本を活用する取り組みが広がっています。絵本で知識を増やし、想像力を高めれば、こどもでもいざという時に対応できるようになると期待されています。

「絵本ナビ」編集長の磯崎さんが薦める絵本『はなちゃんの はやあるき はやあるき』（岩崎書店）は、東日本大震災で被災した岩手県野田村の野田村保育所の園児の姿を描いたもので、著者は同村出身の宇部京子さん。保育所は津波にのまれて流出したが、約90人の園児は全員無事でした。毎月行ってきた避難訓練のおかげで高台に逃げられたからです。

また、被災したこどもの心のケアを目的にした絵本『やっぱり おうちがいいな』（熊本市こども発達支援センター）も紹介しています。

さらに、防災に関する絵本を探す方法として、図書館とともに、「絵本ナビ」(<http://www.ehonnabi.net/>)や「こどもの本 on the Web」(<http://www.kodomo.gr.jp/>)といったインターネットのサイトを紹介しています。これらのサイトを、「地震」などのキーワードで検索すると、関連する本が示されます。（19面）

◎絵本で「命守る大切さ」

絵本『ピーナツアレルギーのさあちゃん』（ポプラ社）は、作者栗田洋子さんが、次女のさえりさんがピーナツアレルギーで苦しんだ経験をもとに書きました。友達や先生に自分の症状を知ってもらい、身を守ることを覚えるお話です。（25面）

過去の記事の一覧はこちらから
また、元記事は県立久喜図書館で見られます。



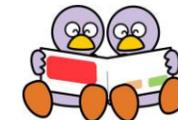
井上（子ども読書支援ボランティア）

使えるブックリスト ブックリスト担当から

学年別「季節ごとのおすすめ読み聞かせリスト」。
今回は小学校高学年と中学生の“夏のリスト”です。
新たに高学年18冊、中学生9冊をリストに加えました。
プログラム例を紹介します。

高学年 15分プログラム

- 1 『アンモナイトの夏』（7分）
（本木洋子作 新日本出版社）
- 2 『石の卵』（15分なので紹介で）
（山田英春作 福音館書店）



『アンモナイトの夏』で化石のおはなしをしたあとで、『石の卵』を読まずにページをめくって見せて紹介してください。

大人でもびっくりする美しい石の写真ですから、教室に置いてこられたら、こどもたちがじっくり見られるので一番良いですね。

世界をめぐる詩と、一つのことを達成しようとする少年たちのおはなしです。時間が確保出来ないときは、2は①か②の一冊で大丈夫です。
先日、中学1年生に②を読んだら目の前の男子生徒が「面白かった」と言ってくれました。

全リストはこちらから



中学生 10分プログラム

- 1 『朝のリレー』（2分）（谷川俊太郎作 光村図書出版）
- 2 {
 - ① 『風をつかまえたウィリアム』（7分）
（ウィリアム・カムクワンバ作 さ・え・ら書房）
 - ② 『ホームランを打ったことのない君に』（8分）（長谷川集平作 理論社）

大塚（子ども読書支援ボランティア）